

山口耕道先生と出会って（6年生）

6年生は、4か月という長い時間をかけて、狂言学習に取り組んできました。

今年度も、山口耕道先生をお招きしてご指導をいただきました。「君たちが創り上げてきたものは尊いものです。簡単に否定することはしません。」という言葉は、本当に、本校の学校教育目標（サブテーマ）である『人間尊重』の精神にも合致しています。

今年度は、山口耕道先生に8回もご指導をしていただくことができました。大変有り難い機会をいただきました。



山口先生、今までご指導をどうもありがとうございました。

みなさん、今日は、観ている人から視線をひしひしと感じましたか？人が自分を見ていると感じる体験が素晴らしいのです。身が引き締まるでしょう。私たちは、必ず人が自分を見ているということを覚えておいてください。

狂言を通じて、何を伝えたいかということ、セリフには感情が含まれています。今、怒っているのか、喜んでいるのか・・・感情は、自分の心の底から拾い集めてきてほしい。そして、演技をしてほしい。人はいろんな感情をもっています。狂言を通じて、一人の人間が、いろんな感情を持ち合わせていることを経験してほしいです。

平荘狂言教室後援会の谷川会長様からは、「子どもたちは、地域の宝です。」という言葉をいただきました。

子どもたちは、地域からも愛され、大切に育てていただいています。

狂言学習を一つのきっかけとして、地域とつながり、地域の皆様の温かさを感じながら、関わっていただいた方々へ感謝の気持ちをもちながら、自分たちの地域を大切に思う心（気持ち）を育ててほしいと思います。



5年生は、狂言発表会の会場で直接観ることができました。翌日、子どもたちに感想を尋ねてみると、5年生の児童は、「6年生は大変迫力がありました。来年、ぼくは、とんびをしたいと思いました。」と言いました。3年生の児童は、「6年生の迫力のすごさに感心しました。ぼくは、附子をやってみたいと思いました。」と言いました。下級生は、6年生にあこがれと尊敬の気持ちを持ち、思いを伝えていました。



3. 11集会を行いました

3月11日は、東日本大震災が起こってから11年を迎えます。被災された方々の生活が元に戻ったわけではありません。今もなお行方不明者がたくさんおられるのが現状です。甚大な被害をもたらした東日本太平洋沖地震です。私たちは、この教訓を忘れず、震災に備える大切さを改めて確認しました。

3月11日の朝に、5年生の児童会役員が司会を行いながら「3.11集会」（リモートによる集会）を行いました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りしながら黙祷を行いました。



全校生で、大掃除をしています

3月11日（金）は、ワックスがけを行いました。終わりの会の時には、子どもたちが、教室の中にある机や椅子、ロッカー等を廊下に出し、きれいに掃除をしました。放課後、教師によるワックスがけを行いました。



全校生で、学校を美しくしています。自分たちが使ってきた教室をきれいに掃除し、新学期に備えます。